

市長コラム

～今こそ地域連帯～

Vol.21



★今回の大雨災害を振り返って

今般の8月3日から12日にかけての記録的な豪雨は、市民生活や農作物等に大きな爪痕を残しました。

私自身、8月14日、15日と大規模な冠水のあった姥苅桜木地区(猫淵地区)の被災現場で市職員とともに復旧活動にあたり、防災体制の在り方をしっかりと見つめ直すとともに、被災者の方に寄り添った必要な支援策を早急に講じてまいりたいと考えています。

災害から約2カ月が過ぎようとしていますが、いまだ被災の影響は色濃く残っています。私たちは今回の経験を踏まえ、日頃から災害への備えと防災に対する意識を常に持たなければならないと改めて実感しております。

★「自助」と「共助」の大切さ

このたびの災害で実際に発生した事案ですが、被災地区において、避難し遅れた方が一時、取り残されたという事案がありました。

救助活動の中で、取り残された人に目が届かなかった状況があったことは、行政としても大いに反省すべき点でありました。

しかし、行政や消防による「公助」では、最善を尽くしてもどうしても限界があり、そこには、自らの命は自らが守るという「自助」、そして地域や町内会などで協力して取り組む「共助」が不可欠であります。

今後、今回と同等以上の大規模な災害により、被害が市全域に及び、より多くの市民の避難が必要な状況も想定しておかなければなりません。

災害時において人命を守るためには、「自助」「共助」「公助」の連携が不可欠であり、特に、地域住民一人ひとりの安全を守るためには、「共助」の仕組みづくりが最も基本的かつ重要な要素であると考えています。

★町内会など小規模での自主防災組織の重要性

地域防災力を高めるための「自主防災組織」は、平常時

においては、住民の防災意識の啓発や高齢者および障がい者など要支援者の把握等を行い、また、災害時においては、避難誘導や安否確認、組織的な救助活動など、地域で自主的に防災活動を行うという重要な役割を担っています。

近年では、頻発する災害リスクの増大と高齢化の進展等により、その必要性はより一層高まっています。

各地域で組織する「自主防災組織」は、地域コミュニティならではの特性を生かし、日頃から顔の見える関係の中で地域密着の取り組みを通して、有事においても迅速かつきめ細かな対応が可能であり、いわば「防災活動のかなめ」とも言える存在です。こうしたことから、より効果的な活動を行うためには、町内会等が形成されている小規模単位の組織することが最適であると考えます。

各町内会等におかれましては、「災害時には自分たちの地域は自分たちで守る」という意識の醸成と「自主防災組織」の設立にぜひ取り組んでいただき、地域で支え合う思いやりのあるコミュニティ形成と安心・安全なまちづくりにご協力をお願いします。

★「ホコ天マルシェごしょがわら」を開催！

10月8日(土)、大町通りを歩行者天国にし、「立佞武多の館」周辺を主会場として「ホコ天マルシェごしょがわら」を開催します。従来の「産業まつり」のリニューアルイベントとして、この秋収穫される野菜や果物、市の特産品や工芸品など、約50事業者が出店する予定です。当日は、「立佞武多の館」の大扉をオープンして大型立佞武多がイベントに花を添えるほか、「マイナンバーカード出張申請受付キャンペーン」も併せて実施し、申請された方には、もちろん「十三湖しじみラーメン(2食入り)」をプレゼントします。

ぜひ大町の「ホコ天」にお越しいただき、五所川原市の魅力満載の「マルシェ」をご堪能ください(3、8ページ掲載)。



猫淵地区の市職員による復旧支援活動の様子



金木地区の農作物被害の状況説明を受ける様子